

「2023年度中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学教育学部1年 大家 優理子

- ① 今回のプログラムに参加する前は日本から出て学習することに否定的で、日本のことを嫌いな人がたくさんいる国に行かずとも大学に来ている留学生と交流することで十分に文化交流は可能であると思っていた。しかし、今回のプログラムに参加して、その国の人は当たり前であると思っていることでも日本から来た人間にとっては当たり前ではないこと、日本にいれば当たり前だと思っていることが海外では当たり前ではないことを痛感したし、当たり前のことこそ留学生の口からは当たり前すぎて出てこないのが実際に現地に行かないと知ることができなと感じた。実際に現地に行って、現地の人、また同じく現地に興味をもって自らやってきた人と濃い人間関係を気付けるという点で留学には価値があると思った。アジア圏から来た留学生に、「ここにあなたが来たのも大きな挑戦だけど、ほかの国に長くいてみることで短い期間では見えないことをたくさん見ることができるしそれは大きな経験になる」という話を聞いて、長期の留学にも少し意欲がわいた。大学での学習について、積極的に習ったことを試すという姿勢が自分に足りない姿勢だと気づくことができた。自分のクラスメイト達は習った中国語を会話に織り交ぜて使っていたしそれを楽しんでいる雰囲気があった。大学での自分の学習を振り返ると宿題や予習、復習はしっかりしていたものの自分のものにできていないことが多かった。そしてそれは自分がその知識を使っていないからだと思わされた。そしてその作業を楽しく行うことができるのだということにも気づかされた。また自分が国際情勢に関して、ニュースなどを読んでアンテナを張っているつもりになっていたが、ほかの国から中国へ留学に来ていた留学生は、誰かが出身国を言うと「その国はこれが有名だよ」といろいろなことを知っているのに対し自分はほかの国で流行していること、就労のこと、特産物のこと、なにもかも知らないことだらけで、もっと他国について、日本から見た視点でも知らないといけないことがたくさんあると感じたし、その無教養さに気づけ、自分でもほかの国について知ろうという姿勢を持てたことが大きな糧になったと思う。
- ② 海外での経験は日本をより知ることに、自分を見直すことにもつながった。中国に少し怖いイメージを持っていたし、それは中国に留学した後も完全に消え去ったわけではないが、話し方が怖くてもとっても優しく外国人で日本人である私たちのためを思って行動してくれたり優しい言葉をかけてくれたりする方々に出会って、話し方やリアクションの仕方も日本流に意識が支配されていて勝手に怖いと感じていることに気付かされた。日本を基準にして考えることで海外について知ることができることは大いにあるが、日本の様式に支配されると見過ごしてしまうものもあると感じた瞬間だった。
- ③ プログラムの内容について、中国語を学ぶ授業については、ほとんどの文法事項やクラスの説明が中国語で実施されたのでリスニング力にいい影響があったと思う。また発言する機会も多く、生徒の性格に頼らずとも発言する機会を増やすことのできる働きかけも多かったのが日本の外国語教育でも取り入れられるのではと思わされた。接触杭州では遠いところにも連れて行ってもらえて、自力ではいけなかった施設にたくさん行くことができた。セミナーで中国の人と関わる機会が保障されていたのもうれしかった。
- ④ 私は進路についてあまりしっかりとした方針を決めているわけではなく、子どもが好きなので教育にかかわる仕事についたら、という風に考えていた。中国で出会ったほかの留学生は社会人が多く、そのため仕事の話もよく聞いた。仕事についても学習を続ける姿を見たり、仕事についてこうなりたいという話を聞いたりするたびに、どの仕事に将来就くことになっても、彼らのように前を向いて自分だけでなく周囲をよりよくしようとする姿勢を持てる人でありたいと強く感じた。